



新  
版  
入

全  
浪  
杯  
ち  
ぬ  
ら  
き  
七

下  
世  
の  
新



遠  
1617  
7





へ13  
17  
7

下  
伊  
勢  
新



多玉初ちぬくこときこせ

豊列中念もれ舞ののり

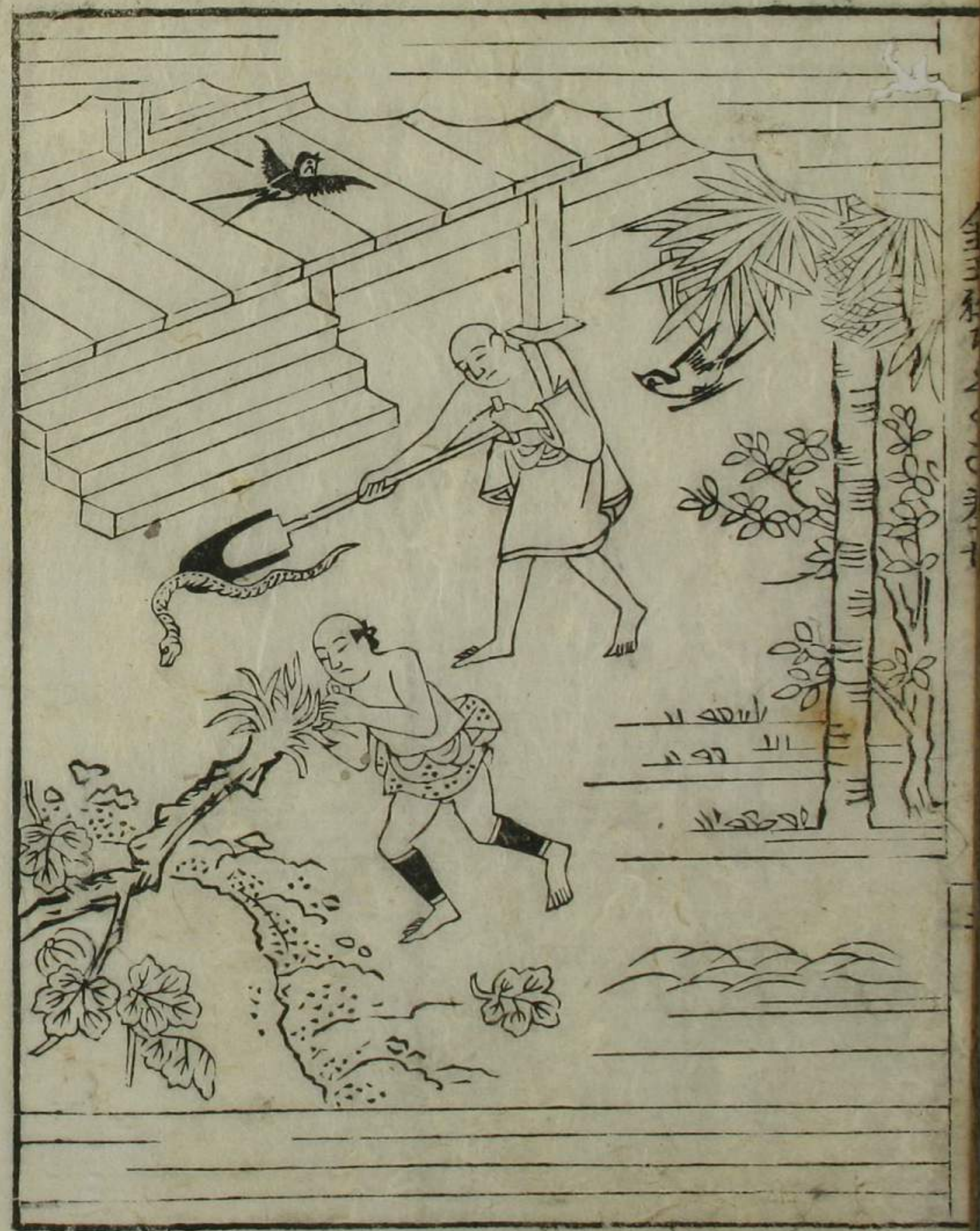
舞帝が画けきばな税舞の前舞こりみい  
たらう鳴バ央ふたはと極ぬ其外舞の音  
あふいの永味りがきも人れりまありし  
まなのもさばさうでめてもを子細あまじ  
くは田舎ゆてハ舞の果うは舞あハ其年  
舞舞ふあらずとてまじ例年果うあ家  
へはむめのまぬ年ハいらふもふうは舞の  
たのり人ま入明がれ身のふの足舞ハさう













なるべ何このやのそとつだか地と多くん  
 で祇（そと）より入主せれば目とあして毎るづら  
 くこれび枝葉はえはびころて魚のご  
 とくならるる葉と法（し）入り目と絶て見えよ  
 終（ち）ちるく一せればらあ入構（は）の程と  
 こののああり集れりそとあてて他  
 かの葉のたぐひなるべ一しと絶て貴（た）ねす  
 庭一とそとくああ（あ）集り一川二河被  
 て中せられが中ハ松（ま）梅のこく一して一庭  
 ころと（ふ）集れ子ふりうきたうのあやといよ

由ひ見えてあるゆふはくくと離れちり  
 小蛇（こ）の紀一てねのまじりていあ金（い）盤（い）のみち  
 ざ一記入遠もてせらふいさうなり一庭（い）よ  
 ちとりり空とほるとはあを梅ありけぬ  
 ては空へらうとまふれをびごのそとあく  
 集れりつうて一庭ふらうみまうとくあをた  
 らあくとうけまひては人あねやう（あ）子（あ）葬（あ）ね  
 徹（あ）子（あ）意（あ）乃（あ）すむ帝世の虫（あ）のふハ仁（あ）義（あ）成  
 ちねあふあて地と作りて合（あ）りおと一  
 あ中（あ）小蛇（あ）折（あ）きれればはをめらそとあう



かく日中の地ふあつ子と徳なき中  
 も海と信後よりいづくもさうあはる  
 かりとたのつらういづくもさうあはる  
 驚れけ程と死つるあつ半は信後此  
 たりあまふ中を信せしと其西へ海にお  
 と子ばうといけ西あつ産といふ信ト  
 難しうさひて常世のあつあつと  
 りあせうこそ死つるこれとられ初め  
 中に入れて我まゆて地よ子と死られ  
 信せしと信てはういづくもあつ

信後ういなる地を信り子とそ  
 だてぬいあま子ぬいさつと死つた  
 中とらあなるべし信よんるを  
 信男うらり其約ハ信せざるも物を  
 うんする信法ハうまこところあ半あ  
 三を死つたれハ獵師乃信とて信ハ  
 は西の地公なるべし一切を信し信姓  
 ありとて信て信人せしと信と信  
 信を地と死半  
 ありとて信て信人せしと信と信



の六毒がまき(バ)一目よ千里(バ)一(バ)猛虎  
も(僅)雀(バ)どれるらんを(恐)れて竹(バ)れ  
林(バ)城(バ)うく(バ)せ(バ)る(バ)竹(バ)あ(バ)らん(バ)れ(バ)た(バ)あ  
大(毒)中(毒)て(救)わ(は)ぶ(と)び(お)ま(は)た(の)れ  
と(毒)く(死)す(ら)う(や)け(は)ふ(お)れ(う)て  
水(を)飲(バ)切(は)る(毒)あ(らん)事(を)れ(それ  
て)其(水)の(事)あ(ら)う(摩)ら(ふ)ら(ぬ)の  
あ(ら)う(又)其(水)を(飲)め(ま)は(毒)を(傳)せ(ん  
事)を(は)う(て)それ(あ)う(法)を(の)む(と  
う)や(ら)ひ(傳)入(傳)入(さ)う(ま)い(と)も(それ)い(え

れ(ら)こ(一)れ(う)い(ゆ)く(地)蛇(蛇)牛(一)れ  
云(教)と(て)あ(ら)う(地)牛(と)ら(う)地(牛)ハ(る)び  
を(室)に(一)地(は)蛇(を)れ(ら)事(事)う(う)さ(を)  
了(る)も(そ)て(皆)人(れ)を(れ)ら(あ)ら(う)あ(は)人(の)  
を(せ)ん(小)木(ま)た(ら)白(水)あ(ら)う(水)の(江)  
よ(あ)や(あ)は(い)も(生)を(あ)ら(う)あ(ら)る(は)  
何(由)と(あ)ら(う)は(白)水(あ)ら(う)れ(ぞ)ん(で)毎(ら)  
蛇(と)二(河)三(門)さ(ぬ)目(を)な(く)カ(ら)う(よ  
る)れ(毒)が(ま)き(こ)も(何)と(せ)ら(す)こ(う)や(う)  
なく(一切)有(接)の(それ)く(れ)事(を)は(は)る



く半さうんどて言ーぬゆふの河ぞの  
こらあり蛇ひたれく死して地の色いろふううあ  
備ひつらうぬれう何ふらう向く海うみを足  
移うつがやーその事小思ひーよあつたぐれ  
りづくさ色なく三足さんなる蛙か一丈いちこび東  
て水の汀みづのなる為な乃の新あらた中なかつて立た立たりも時  
其そのあうささうて花はな山の雲うみのはざらぬあり  
あさなるるび一丈いちなるあてけ蛙かさう  
んとの蛙かハは何なに小こ根ねも入れて場ばへ  
地の條ぢの條ぢのさうじぶじぶあうらんあうさ

と見て、ちれ毒どくさなるるびをたいのけ  
蛙か強つよゆんゆんとと人ひとたけけり喜よろこぶる小蛇こひこび  
うりて蛙か小こ吟いんり付つねさてハはりやうれ  
ぬこたりのひ其そのあう、あてぶぶあり海うみへ  
おれバばととあうくまそはるるびハは死し一いち蛙か  
ハは還かへてつつかなく所ところの二ふた人にん海うみゆさそ又  
そものごとくよ鳴なえうはあよけあうさそ  
いていづくさ色なく又またあうるるびを  
ひあてそらうくくと移うつりいありあいら  
うくあてはあう向むかよこびうくと移うつる



吟ひ付中ぞありけし飛燕くまの馬をわ  
 げるびれあざいこと付まらうけ地さう  
 うてむいさう地ふんてれびちみく家  
 一げおれいましほて地よ死せうか  
 別の子ぬあく又知人のまてま人のごと  
 くおぼあう一何こそぬんはましに  
 ちさなる地のおいなるびよさうあう子  
 の事なうけつるふ付地はちのさくそ  
 大兒なるるひをさそれう他一三是れ  
 野ハ豆小子供うかまうこまあうて見

れハ三是あわくはさうの口され地あう  
 一うさよあまい地牛とはいみてこく  
 めてこひあうてるるびのさひわのく  
 くの付んさす地時ハはあちうさをは  
 さひたあふよとれてるるびれあまいこ  
 さ一こむるるびハ食らうの地ゆくこび付  
 やらあや地えをうりかんすらうくまをわ  
 まし細ハ一あみあまくさの付け毒ふあ  
 こと死するこらんたうあ跡を風還て播  
 をわむこ世信ふりひ修人一うさされハ今



のおのりもあめりるびふうれせん  
 方なきふかちりてちせの福一也  
 智勇備りたる性けしきと用ひあめり  
 のあつれ死すふこんたるは  
 國亂のまゝ天下の天子のまゝかまごを  
 上返すと先ひ饑乏の民とありま  
 まらせいごもまつまげまびる報す  
 せらるるまごせせらるる小まご  
 ああせそわくごもゆりねとく  
 の仕、まご用ひすかしてはまご





こいつらのるれ鶴とをそまじらばかゝりぬ  
ひーこは成後とをさかたり見ずいふを  
あこなひの盗賊強なりてあまを  
せーまごも和漢あつた  
わーあやれ事と見え一人は  
るふをと宝にせぬやうふとあつた  
仁政と教へたありて國を  
まごそ久あつた

伊吹山の水神

伊吹山小百草ありてりあり

野年の鶴山人小分入和漢をり  
守山の若ふと伴とて  
時葉若千と救むとては山入  
つくともかく猿一ひい  
くて川を打ばま申こ  
あつた  
てそを新く  
と猿の  
て一の  
集れり



あつてたご今さんよれぞやうとてれ  
ごも産産越へとれぞすくへとて種を  
種くーとんくたうたうぬー懐かみさ  
んれさふふふはやちと一物一をれば  
そぞあふーよまゆたなくふゆ(平)  
むとくーまゆそれあうまゆんさゆ  
よまるとーたぞりすまーうぶばさうふ  
種ひそあう星あもるほをとくはあん  
ち種と種あう智あう種をたびりて  
種のごく星あでたううぬせとりバ種

種へふありし種まきと種くんとは種ふり  
うあよゆんでかあもたはたさほ産を立  
種さんぞすひー種を種するこんて  
一の音ごこの口を種あうーたると死  
あーまゆあふてああに口を種い  
たあさうらあうはよんく種れはまゆ  
はゆいよ種まのーまゆと種はまゆらう  
してまゆの種種れあう種をりけぬり  
あうのりやまゆあうせんまゆひほい  
かーとてはれくうれ種とまゆらうぬ

種とまゆの種







死んよ者どしあする事うみひぐし  
 こりよを布りせん方なくとらまじと色  
 ありぬぬんふるびもをたぶらりよ  
 其の室をせつらう事あつらうせちて  
 の内あてともあくもあつらうとあつら  
 世までの内あつらうなるべし  
 くれみたぬしせとせつらうよあつら  
 をあつらう色あつらの事ふひひと  
 せつらうしつらうしあつらのひひ  
 つらうはあつらうしあつらうなるべし

色一すいふん佛入をせつらうけ  
 やうも終りと終りて一家の男女  
 衆はうらを借あつらぬ事あつら  
 ぬうくたぐ一人衆とせつらうし  
 衆のあつらう一書をこせつらう  
 げぬしとあつらうなるべし  
 なるべしとあつらう今あつらう  
 ありあつらうて中れあつらう  
 ありあつらうとあつらう  
 ありあつらうとあつらう



へ登つりつゝくこもななくほのうせねまあり  
 後身も疾くけ疾くあつてころもるまで  
 別の子細をなつて一が強ふりしう  
 るころふおきくはほこの命をたび  
 たりくおのせく若一かおこころごとく  
 ばうらなれればはや舞化め入事とらへん  
 と別後ふるあつておと世後を身ふるさ  
 次おとよふつふと後福一命のゆるる  
 と後病をれとて別のふみといもなくあ  
 明もとまらまらつての目もたあらわれバ









てつぎるへあげ来れりさうゆよあけし  
たりきんある日任持の秘流せられし  
縁回のけしいでさう風おろつられてはそ  
のふ念のいふ事うれ後うまじとあじ  
御やお梅のり殺年流ふ今まで何ぞ  
いさし事もなうらとふあふよらく  
難なればこそすらんあ後とらん一其  
れんをさうに還てめくお小宮ととなん  
事れうしてさよなをいひてれりのみ  
世ふ猫と飼われりよとて人の様ふ

を改なりとておれありまをさほ  
せだ角のりごお物体用をて梅つと  
うまをさうにさやみうぶちの角梅  
ようらん一とらんて一日殺中延むらう  
おちをいなるうけをらん一とらん  
中へおしれさうにくお水と梅つみあり  
はあらうけいおせバ袖の箱ハ鏡お水  
らんやう小巻くさみさみうら後あり  
お小まあるさ水八分箱たありし  
座のさなる法一とをとおありあり



わらうとあるひは樽げ又ハくくみりて  
はかりけの側まで流るり対たの流  
ふ流るり向ふ並び一せつてたのあり  
けの中へ入るり一四さやせよせよ一  
流のくく流あつたの流へ入るりて  
みむさふ並びぬれ合り千一連の流の千  
一連でせよ一とわれはせよたの流をぬ  
れどもせよとて其の流つらぐと並ひよ  
つらぐ一連のたの流をぬれよとせよ  
まじりてたの流をせよ一とてせよ

おまのぬよはせよ一は流のくく  
あぐまはびたぐは流つて流二流  
ぬよせよせよとせよとて流るる  
ぐりて流はたの流とせよ一ぬ  
せよぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
まじりてせよとせよとて流るる  
せよせよせよ一は流の目かぬとせよ  
流るり一は流るり行ひ流るる  
く流るるぬれぬれとせよとせよ  
なるりてたの流をぬれよとせよ



物と三度ののハカアハハ...  
このどくく...  
て色...  
人...  
を...  
わ...  
の...  
の...

下...  
新...

香玉...  
七...

北...  
伊...  
岡...  
新...



